

文化財石垣保存技術協議会会報

平成20年(2008) 第1号(創刊号) —協議会設立総会特集—

平成20年4月5日(土曜日)午後3時から姫路市の日本城郭研究センター大会議室で文化財石垣保存技術協議会の設立総会が開催されました。全国各地からご来賓、そして多くの会員の方が出席され文化財石垣に対する新たな取り組みが始まりました。



発起人会



役員会



総会

ご挨拶

発起人会・本会代表 粟田純司



粟田純司氏

桜の花も満開の折、全国各地からお集まりいただくなか文化財石垣保存技術協議会を設立することになりました。

姫路城をはじめとした城郭等の石垣は、世界的にみても比類無く美しいもので、わが国を代表する貴重な文化財と考えております。ところが、戦後の急速な機械化や各種の開発などは、文化財石垣の保存継承に大きな影響を及ぼしました。また、文化財石垣の保存と継承に必要な技能者も減少する傾向に危機感を持ち、世界に冠たる石垣の文化を何とか後世に伝えなければという責任感さえ持ちました。その一方、近年では石垣の保存修理に際して土木工学的な検討も必要ではないかという動きもございます。

折りしも、5年ほど前から文化庁を中心にした「全国城跡等石垣整備調査研究会」で文化財石垣の保存継承の重要性を指摘され、私共もより広い視野に立った城郭等石垣の保存継承のための活動を進めたいと考えました。

文化財石垣を後世に伝えていくため次世代を担う若い石工さん達に技術を伝えることが、わが国の誇る文化財石垣を後世に伝えていくことに繋がり、石垣の保存継承に携わっている技術者も一層の研鑽を積み、文化財石垣を後世に伝えるため、「文化財石垣保存技術協議会」を設立することを宣言いたします。

来賓挨拶

文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官 本中眞

文化財石垣保存技術協議会の発会、おめでとうございます。事務局を引き受けていただいた日本城郭研究センター、姫路市教育委員会、兵庫県教育委員会の関係者の方々には大変お世話になりました。

近世の城郭をはじめ、石垣・石積みを含む遺跡の価値を次の世代へ確実に伝えるために、その修理技術を継承することが大きな課題となっております。その方法として、文化財保護法に基づき、石垣修理技術を文化財の保存技術として選定し、その保存団体として石垣修理に携わる技術者及び技能者による団体を早期に設置することが求められてきました。本日発会された協議会は、その候補となる重要な組織であり、石垣修理に携わる人々が心より待ち望んでいたものです。

本協議会には、今後石垣修理技術の保存団体として条件を整え、会員の技術・技能を向上させる様々な事業を展開されることが期待されています。文化庁が毎年主催している全国城跡等石垣整備調査研究会でも、ここ数年石垣修理技術の伝承のありかたについて真剣な議論が行われてきました。本年、特別史跡熊本城跡で開催された第5回研究会では、技術継承の方法及び方向性について確認が行われ、研究会の総意として文書にまとめられました。このように、本協議会と文化財保存技術の選定には、石垣修理に取り組む地方公共団体からも熱い期待が寄せられております。

石垣修理には様々な立場や考え方があり、一筋縄では進まないと思いますが、発会を契機に流れを一つにまとめていくことが求められています。文化庁としましても本協議会の発展拡充に心よりご期待申し上げますとともに、石垣石積の保存修理に係わる技術・技能の継承に適切にご支援申し上げてゆく所存であることを申し上げて、挨拶とします。



本中眞氏

来賓挨拶

兵庫県教育委員会事務局文化財室審査指導係長 深井明比古

文化財石垣保存技術協議会発会おめでとうございます。兵庫県では、景気悪化に伴い文化財調査は減少気味ではある一方で、文化財保護・活用意識は徐々に高まってきている状況があります。県内では特別史跡姫路城跡をはじめ多数石垣を有する史跡があります。また幕末に築造された砲台、古墳時代の石室など石垣や石積を有す文化財もあります。

この様な状況のなか兵庫県では、指定・未指定景観も含め広く保護活用してゆこうと「歴史文化遺産活用構想」を進めております。この契機となったのは平成7年の阪神淡路大震災により文化財等が破壊される状況を目の当たりにしたことでした。構想をもとに例えば採石場の分布調査なども進め、これらの成果を地域の方々と共に保存して学んでゆこうと昨年秋には考古博物館を開館しました。兵庫県では石垣の技術に関する調査も進めていますが、行政、研究者や協議会等と連携しながら様々な事業を進めてまいりたいと思っています。

最後に石垣技術の研究、継承を通して地域の文化財の保護・整備にさらなるご尽力を賜りますとともに今後の協議会の発展を祈念して挨拶とします。



深井明比古氏

来賓挨拶

姫路市教育長 松本健太郎

世界文化遺産姫路城の桜が満開を迎え一年で一番華やいだ時期、全国各地からお集まりいただき文化財石垣保存技術協議会設立総会が開催されたこと、心より歓迎申し上げます。ここ姫路城も三代に渡りそれぞれ特徴持つ石垣が築かれていますが、時代の経過の中で風化や破損が目立ち保存のための適切な処置を講じないといけない時期にきております。

その城郭等の石垣を後世に確実に保存継承してゆくためには石垣保存技術の継承が不可欠と考えております。伝統技術継承の機会や技能者が減少傾向にあることを危惧され本協議会が設立される運びとなったことは大変喜ばしいことと思ひ、是非石垣保存技術継承の中核を担っていただきたいと思ひます。姫路市も石垣保存技術継承の重要性に鑑みまして事務局をお受けすることとしました。できるかぎり支援してまいりたいと思ひます。石垣保存技術の本協議会の主旨に賛同され入会された会員の皆様はじめ準備会の皆様、本中主任調査官をはじめ先生方に対しまして心から敬意を表すところでございます。本会がますます盛会となり初期の目的が達成されますことを心から願っております。



松本健太郎氏

来賓挨拶

日本城郭研究センター名誉館長 狩野久

かつてわたしは文化庁にいて、姫路城の城郭の中から明治以降にできました公共施設をどんだん外に出す作業をしていました。そのなかで本センターを建設するには大変多くの議論がありました。この日本城郭センターでこの会の事務局を簡単に引き受けたように思われるかもしれませんがなかなかそうではありません。その一方「世界遺産姫路城ではないか」と、積極的に引き受けるべきだと温かいお言葉も頂きました。

7年ほど前になりますでしょうか、姫路城の中に「匠の館」を造る計画が持ち上がりました。やはりその背景には世界遺産姫路城の保存に、当時の伝統的建築技術や技法が良好に残っているということもあり、その文化を発信していこうという構想でした。そして、その場所も城内のどこでも良いという訳にはいきません。むかし作事場のあった場所が良いのではないかと考えたのですが、何十万の市民が楽しんでいる動物園があり、現在計画は構想で止まっております。

しかし、考えて見ますと石垣保存技術の研修のセンターが姫路城に出来ることで、日本城郭センターそのものをある意味で皆様で育てていってもらいたいと思ひます。

現在職員は室長以下数名の職員にすぎません。そんな体制で皆様が満足する事務局体制ができますかどうか心配もありますが、みんなで頑張って進んでいこうと思ひています。どうぞ皆様ご指導のほどよろしく願ひいたします。



狩野久氏

設立総会開催状況

総会は、技能会員82名、技術・研究会員32名、評議員8名の合計122名のうち、出席者71名、委任状提出者44名の合計115名で、会則により会員の1/2以上の出席あり、本日の総会が成立したことをご報告します。また、議事進行は事務局長上田氏（姫路市立城郭研究室室長）がおこないました。

議事日程と内容

平成20年4月5日（土曜日）午後3時から姫路市の日本城郭研究センター大会議室

1. 開会
2. 発起人会代表挨拶（協議会設立宣言）
3. 来賓挨拶
4. 議事
 - 第1号議案 評議員、役員の選出について
拍手をもって満場一致にて承認
 - 第2号議案 平成20年度収支予算案について
拍手をもって満場一致にて承認
 - 第3号議案 平成20年度事業計画について
拍手をもって満場一致にて承認
 - 第4号議案 その他の事項について
拍手をもって満場一致にて承認
5. 閉会

（午後5時から情報交換会を姫路キャッスルホテルで開催）

■文化財石垣保存技術協議会設立の趣意

文化財に指定されている城郭等の石垣は、我が国の伝統的土木構造物として、世界に誇る代表的な文化遺産であることは申すまでもありません。この文化財石垣の保存継承のため、その修理に努める我々の責務は重大であります。

しかし、戦後の社会情勢は急速な勢いで近代的な機械、材料、工法等をもたらした文化財石垣の保存継承に重大な影響を及ぼし、我が国特有の文化的景観を損なうばかりか、その技術継承の機会や技能者が減少の傾向にあります。こうした状況を鑑みると、世界に冠たる石垣の文化を後の世代に伝える我々の責任の重さを認識せざるを得ません。

しかしながら、文化財石垣の大半は全国地方公共団体等公的機関が所有、管理しており、我々にできることは自ずと限界もあり、文化財石垣を所有しまたは管理している立場の方々と連携し、一体となってその保存継承にあたる必要があると考えます。また、文化庁や関係諸機関はもとより、学識経験者を始めとする有識者の協力を得て、より広い視野に立った文化財石垣の保存継承のための活動を進めたいと思います。

また、我々が獲得している文化財石垣を後世に保存継承するための技術を、次世代を担う技能者に伝承していく必要があり、このことが文化財石垣を永く後世に伝えることにつながるものと確信します。

そこで、我々文化財石垣の保存継承に当たっている技能者は、さらなる研鑽を積み、文化財石垣を後世に伝えるため、「文化財石垣保存技術協議会」をここに設立いたします。

■入会の手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡下さい。当協議会の書式の入会申込書を送付いたします。必要事項を記入し、本協議会事務局までご返送下さい。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書および会費納入振込用紙を送付いたします。年会費（4月～翌3月）をお振り込みいただき、事務局にて正式に受理した日から本協議会会員として登録いたします。

| | | |
|---------|-------|-------------|
| 技能会員 | 年額 | 5,000円 |
| 技術・研究会員 | 年額 | 5,000円 |
| 一般会員 | 年額 | 3,000円 |
| 賛助会員 | 年額 1口 | 10,000円（法人） |

■文化財石垣保存技術協議会評議員・役員

（平成20年4月5日現在）

| | | |
|---------|--------|-----------------|
| 評議員 | 北垣 聡一郎 | 石川県金沢城調査研究所所長 |
| | 五味 盛重 | 元文化財建築物保存技術協会参与 |
| | 千田 嘉博 | 奈良大学准教授 |
| | 高瀬 要一 | 前奈良文化財研究所文化遺産部長 |
| | 田中 哲雄 | 東北芸術工科大学教授 |
| | 西田 一彦 | 関西大学名誉教授 |
| | 麓 和善 | 名古屋工業大学大学院教授 |
| | 三浦 正幸 | 広島大学大学院教授 |
| 代表 | 栗田 純司 | 技能会員 |
| 副代表 | 上月 騰 | 技能会員 |
| | 小林 善勝 | 技能会員 |
| 監査役 | 松本 勝蔭 | 技能会員 |
| | 和田 行雄 | 技能会員 |
| 事務局長 | 上田 耕三 | 姫路市立城郭研究室室長 |
| 副事務局長 | 中川 秀昭 | 姫路市立城郭研究室職員 |
| 幹事 | 會澤 敏夫 | 技能会員 |
| | 荏本 久 | 技能会員 |
| | 奥村 信一 | 技術・研究会員 |
| | 中野 浩幸 | 技術・研究会員 |
| | 西川 禎亮 | 技能会員 |
| | 橋本 孝 | 技術・研究会員 |
| | 真鍋 建男 | 技術・研究会員 |
| | 矢野 和之 | 技術・研究会員 |
| 幹事会ガバナー | 楠 寛輝 | 技術・研究会員 |
| | 富田和氣夫 | 技術・研究会員 |
| | 宮里 学 | 技術・研究会員 |

■文化財石垣保存技術協議会会員数

（平成20年4月5日現在）

| | |
|---------|-----|
| 技能会員 | 82名 |
| 技術・研究会員 | 32名 |
| 一般会員 | 6名 |
| 賛助会員 | 8社 |
| 評議員 | 8名 |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 発行年月日 | 平成20年(2008)6月25日 |
| 編集・発行 | 文化財石垣保存技術協議会 |
| 住所 | 〒670-0012 姫路市本町68-258 日本城郭研究センター内 |
| TEL | 079-289-4877 |
| FAX | 079-289-4890 |